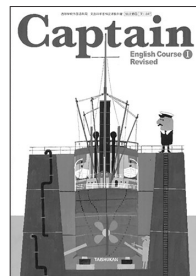


Captain English Course I Revised

分かる授業を目指す

——付属資料を活用しながら

平原麻子



教育課程実施状況調査（平成15年度：文科省）によると全国の中学3年生のうち、英語が「好きではない」と思っている生徒はほぼ50%に達し、英語の授業が「ほとんど分からない」または「分からないことが多い」とする生徒は約30%いる。そういう彼らが高校に進学し、「英語って楽しい」「ちゃんと勉強してみようかな」と思うようになってくれることが、*Captain English Course*の願いである。そのためには最初が肝心だ。まずは授業を通して英語の音声に親しませ、英語を使って自分を表現することに慣れさせたい。

本稿ではこれらをふまえ、*Captain English Course I* の Lesson 1 “Not No. 1 but Only One”（大ヒット曲『世界に一つだけの花』をモチーフに使った課）の Part 1 を取り上げ、教科書の付属資料を活用しつつ授業を展開する例を紹介したい。

1. トピックの導入

まず、教師自身の好きな曲を生徒に聴かせてみよう。その曲の説明を簡単な英語で行ったあと、“What song do you like?”と質問し、“I like ~’s”という形で生徒に答えさせる。ここでは「英語を使って情報交換をしている」という雰囲気や自然に作り出すことが重要だ。

次に“Lesson 1 is from a very famous Japanese song. Its message is ‘Not No.1 but Only One.’ What song is this?”と聞く。生徒の多くはSMAP『世界に一つだけの花』を思い出すだろう。そこでおもむろに付属CD収録の Have a Break! 1: *One of a Kind* (『世界で

一つだけの花』の英語バージョン) を流して生徒を驚かせる。教師はすました顔で「この歌を英語で歌えるようになろう」と宣言する。

Part 1 花屋の店先にたくさんの花が並んでいます。

compete [kəmˈpi:t] コンペイト] blooms [blu:mz フォームズ] = bloom beautifully [bi:ju:fuli] ビューティフル] alive [əˈlaɪv アライヴ] proud [praʊd プラウド]	This flower is beautiful. That flower is also beautiful. They don't compete with each other. Each flower grows and blooms beautifully. Each is alive and proud. So why do we compete?
---	---

? Questions

1. 花は互いにその美しさを競っていますか。
2. 人間は競っていますか。

Lesson 1 Part 1

2. 単語の導入

新出単語の発音と意味を導入する。このとき、中学校ではよく使われているフラッシュカードを高校でも利用してみると意外に効果的である。教科書付属のCD-ROMにはフラッシュカード作成用のデータが入っている。

「カードの英語を見て発音する」「日本語を見て英語を言う」を全員→個人→全員で繰り返したあと、カードは黒板に貼っておく。こうしておくと、音声による内容理解を行うときのヒントになったり、意味を忘れたときにめくって日本語をみせたり等、のちのち使い勝手がよい。

新出単語として教科書に取り上げているものの以外でも生徒にとって難しそうな語（Part 1ではeach, growなど）があれば、ここで扱っておく。

3. 内容理解

(1) CD を聴く

リスニングポイント「花についてどういうことを言っているか聴き取ろう」を与えた後、付属CDをnatural speedで再生する。何度か聴く中で生徒から「みんな美しい」「競い合わない」「イキイキしている」「誇りをもっている」などの答えが出てくればよい。うまく指摘が出てこない部分があればslow speedバージョンを使って確認する。付属CDには2種類の速さが入っているので、生徒の様子を見ながら使い分ける。

(2) 本文を読む

音声である程度の概要をつかんだ後、教科書を開かせる。リーディングポイント「最後の文“So why do we compete?”の“we”は誰のことか考えなさい」を与えた上で、時間を区切って(30秒～1分程度。生徒の実情にあわせる)黙読させる。

このようにリスニングにしりリーディングにし、必ず、何のためにやるのかという活動目標を明確に与えてから開始する。

黙読後、「“we”は我々人間のこと」という答えが出てくれば、すでに生徒は内容理解ができている。このあと本文を1文ずつ読み、意味の確認をしてもよい。

(3) 写真の情報を読む

本文に添付された1枚の写真から色々な情報を読み取ることができる。Part 1の写真はニューヨークにある花屋の店頭だ。底に書かれた文字などから様々なことが分かる。*Teacher's Manual*を参考に話題を広げよう。

4. 音読練習

本文が十分に理解できたら、いよいよ仕上げる音読練習である。まずフレーズに区切りながらモデルの後に続いて読むところから始める。生徒用付属教材の『学習ノート』には教科書本文が掲載され、区切り方も示されている。これがあれば生徒は自宅でも音読練習ができるので便利である。

5. 文法指導と言語活動

Lesson 1の文法項目は、中学校で学んだbe動詞と一般動詞の復習となっている。

*Captain*では、本文を学習したあと **Comprehension**〈内容理解の確認〉→ **Focus**〈文法事項の説明〉→ **Check It!**〈文法知識を確認する練習問題〉という流れで学習を進める構成となっている。生徒たちが中学校で分らなくなっている部分を丁寧に押さえていきたい。

そのほか付属教材として『単語・文法練習シート』があり、剥ぎ取り式なので宿題や小テストとして利用しやすい。また前述の『学習ノート』は生徒が家で復習するときの助けとなる。

さて、英語の運用能力を身につけるためには、ドリル学習だけではなく、タスクベースのコミュニケーション活動が必要となってくる。*Captain*では各課の文法項目とリンクした活動を紹介する『言語活動集』を用意している。それぞれの課ごとに「基礎編」と「発展編」の2種類の活動が紹介されており、生徒のレベルにあわせて選ぶことができる。また、そのままコピーすれば教室ですぐに利用できるワークシートつきなので、授業の最後はぜひコミュニケーション活動を行っておおいに盛り上げたい。

『言語活動集』

(ひらはら あさこ・筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)